



## ウクライナの支援へ救援金贈呈

平泉商工会女性部が日本赤十字社に

平泉商工会女性部(小室光子部長)は6月6日、ロシアの侵攻を受けるウクライナからの支援に役立ててもらおうと、日本赤十字社県支部町分区(分区長・青木町長)に人道危機救援金として10万2,000円を寄託しました。救援金は、日赤社を通じ現地に送られます。

小室部長と菊田紀子副部長が役場を訪れ、齋藤副町長に救援金を手渡しました。小室部長は「何かできないかとの思いで寄付を決めました」と語りました。



## 災害救護対策などの充実へ活用

日赤救援車車両交付式

町は、日本赤十字社の補助金を受けて赤十字救援車(軽自動車)1台を更新し、5月25日に日赤社県支部から交付を受けました。

救援車は、災害救護対策の充実や赤十字事業の推進のために活用します。

同日、保健センター前で行われた交付式で鍵と車検証を受け取った青木町長は「充実した活動のため使わせていただく」と述べました。



## 町の特産品への理解深める

平泉小5年生が「黄金メロン」を定植

平泉小学校の5年生12人は6月10日、メロン農家の高橋正洋さん(花立)方のビニールハウスで町の特産「黄金メロン」の定植を体験し、栽培過程に理解を深めました。

産業に関する学習の一環として、黄金メロンの栽培から販売までを体験する取り組みで、児童は高橋さんの説明を受けて苗を植えました。三浦優羽さんは「苗に土をかぶせるところが難しかったです。みんながおいしいと言ってくれるメロンを作りたいです」と話しました。



## 巨大な絵柄を思い浮かべ手植え

「ライス・アートinひらいずみ」

色の異なる稲で水田に絵や文字を描く「ライス・アートinひらいずみ」(農事組合法人アグリ平泉主催)は5月28日、長島字矢崎の圃場で開かれました。

新型コロナの影響で3年ぶりの開催となった今回のテーマは「源義経」。約180人が参加し、全体の絵柄を想像しながら赤や黄、黒色などの苗を手分けして植えました。平泉小学校4年の石川華さんは「うまく植えられて楽しかったです」と笑みを広げました。

## 短期集中でスキル習得目指す

スパルタキャンプ第3期が開講

ITのスキルを学び起業などをを目指す短期集中型プログラミング講座「スパルタキャンプin平泉町」の第3期開講式を6月18日、町内の株式会社長島製作所平泉工場で行いました。

プログラミング言語「Python」のスキル取得に向け、県内外から15人が受講。7月10日まで8回の講義を受け、平日は課題に取り組みます。東京都の中岡舜也さんは「最後まで頑張り抜きたいです」と意気込みました。



## 花苗植えを通じ優しい心を育む

「人権の花運動」で幼稚園・保育所の年長児

町立幼稚園と平泉保育所で6月2日、年長児と人権擁護委員による花苗の植栽活動が行われました。

子どもたちが命の尊さを学ぶ法務省の「人権の花運動」の一環で実施。園児は委員から植え方を教わり、園の花壇にマリーゴールドなどの苗を植え、水やりをして成長を心待ちにしました。幼稚園年長児の庄子滯さんは「きれいな花が咲いてほしいです」と語りました。

長島保育所でも翌3日に植栽活動が行われました。



## 3年ぶりの交流を楽しむ

町いきいきシルバースポーツ大会

第45回町いきいきシルバースポーツ大会を6月18日、長島小学校校庭で開きました。新型コロナの影響で3年ぶりの開催となり、60歳以上の町民約300人が久々の交流を楽しみながら、競技に汗を流しました。

5チームに分かれて徒競走やゲートボールリレーなどを展開し、声を掛け合いながらチームワークを発揮しました。高階一郎さん(18区)は「みんなと交流できとても良かった」と充実した表情を浮かべました。



## 町内の歴史を肌で感じる

IBCラジオ平泉ウォーク

町内の史跡や寺院を巡る「IBCラジオ平泉ウォーク」(町共催)は6月5日、平泉文化遺産センターを発着点に開かれ、参加者がそれぞれのペースで歩きながら平泉の歴史を肌で感じました。

町内外から幅広い年代の約300人が参加。毛越寺や高館義経堂、中尊寺など約7キロを巡りました。

奥州市江刺の伊藤えりかさんは「平泉の景色を眺めながら歩けるのは楽しみです」と笑顔を見せました。